きょうしょう
『吉祥』

「吉祥」とは、「めでたい兆し、よい前兆」ということです。

古くから様々なものが「おめでたいもの」とされてきました。「松竹梅」に代表される植物、「鶴」「亀」「鹿」「蝶」といった鳥や亀や虫、「日月」や「雲」、「青海波」といった自然、「七福神」の中福、「一福」といった人物、「退母」や「扇」といった道具、縁起物語や「高砂」といった文学・芸能に由来するもの、などなど。そして、これら「めでたい」モチーフは、歌に詠まれ、絵に描かれ、身の回りの道具を飾る模様に用いられました。人生や季節の節目はもちろん、毎日身近において使うものに「めでたいもの」をあらわして、出世や豊かさ、長生き、幸運といった今と変わってない幸せが願われたのでしょうか。

新春にあわせておめでたいモチーフを代表する松竹梅と美しい花々を描いた作品を集めたのです。

新春の慶賀

新年的喜びは和歌や漢詩に詠まれました。新たな年への希望と喜びが詠まれています。

松竹梅

「おめでたい」モチーフの代表「松竹梅」。松・竹・梅を一組にまとめた考え方は中国で生まれました。中国では、松は冬の寒さの中でも緑の葉を見せ、竹も緑の葉をつけてまですぐに伸び、梅は雪の中でも薫り高い花をつけることから「歳寒三友」と呼ばれ、「松竹梅」は世間の困難に耐える徳のある気高く立派な人物をあらわすものとされました。このような「松竹梅」のイメージは、室町時代頃に日本へ伝わりました。

しかし、日本ではやがて「松竹梅」は気高く凛といい、理想の人物のしるしとしてよりも「おめでたいもの」として用いられるようになります。古来、松は長寿を、竹は子孫繁栄やまますますな人物を、梅は新春の喜びをあらわす「おめでたい」モチーフとして用いられました。また、「歳寒三友」と呼ばれると、松竹梅の持つ冬の寒さを耐え抜き生命力の強さが、人々に「めでたいもの」とされたのです。

このような松・竹・梅が持っていた「おめでたい」イメージの方が人々に親しまれ、江戸時代には「松竹梅」は正月や結婚などでもでたい場には欠かせないものとなりました。

花の美

植物は花が散っても、葉が落ちても、翌年には必ず芽を出し、緑の葉をつけて、枝を伸ばして成長することから、強い生命力や命の復活をイメージさせたようです。そのため松竹梅だけではなく、例えば、牡丹は豊かさや高い地位の、バラは若さや不老不死の、菊は不老長寿のしるしとなるなど、いろいろな植物が吉祥モチーフと考えられていました。花々の晴れやかでめでたい美しさと、その形やデザインの面白さをお楽しみ下さい。
<table>
<thead>
<tr>
<th>番号</th>
<th>作品名</th>
<th>作者</th>
<th>時代</th>
<th>所蔵</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>「元旦」の詩</td>
<td>松平宗昌</td>
<td>江戸時代</td>
<td>越美文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>「新花のしごの初めにつどひつつ…」の和歌</td>
<td>松平康蔵</td>
<td>明治～大正時代</td>
<td>越美文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>鳥鶴松竹梅図</td>
<td>中村西深</td>
<td>江戸時代</td>
<td>春嶽公記念文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>鉄群詩平絵地花菱亀甲文飛錦に松竹梅模様図</td>
<td>越美文庫</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>夏扇・金地に松竹梅鶴亀図</td>
<td>江戸時代</td>
<td>越美文庫</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>梅に鶴・松に鶴図</td>
<td>松平吉邦賛</td>
<td>江戸時代</td>
<td>越美文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>福禄寿・松に鶴・竹に鶴図</td>
<td>松平宗矩</td>
<td>江戸時代</td>
<td>越美文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>松鶴鹿模様図</td>
<td>江戸時代</td>
<td>春嶽公記念文庫</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>梅に竹図</td>
<td>野口小織</td>
<td>明治～大正時代（1847年生1917年没）</td>
<td>春嶽公記念文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>梅に鶴・松に鶴図</td>
<td>岸岱</td>
<td>江戸時代</td>
<td>春嶽公記念文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>日の出梅図</td>
<td>徳川慶喜</td>
<td>江戸時代</td>
<td>春嶽公記念文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>桜花群禽図</td>
<td>島田雪谷</td>
<td>明治9年（1876）</td>
<td>春嶽公記念文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>不老長春図</td>
<td>河野菱渚</td>
<td>江戸～明治（1844年生1900年没）</td>
<td>春嶽公記念文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>牡丹図</td>
<td>松平吉邦賛</td>
<td>江戸時代</td>
<td>越美文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>腐蝕子牡丹模様図絵</td>
<td>松花齋正常</td>
<td>江戸時代</td>
<td>春嶽公記念文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>藤花雉図</td>
<td>池上秀経</td>
<td>1874年生〜1944年没</td>
<td>春嶽公記念文庫</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>菊花胡蝶模様図絵</td>
<td>江戸時代</td>
<td>越美文庫</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>七宝蒙花丸絵料紙箱</td>
<td>江戸時代</td>
<td>春嶽公記念文庫</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>見どころ図屏風「吉祥」</td>
<td>江戸時代以降</td>
<td>春嶽公記念文庫</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

見どころ図屏風「吉祥」
日時　平成18年1月21日（土）午後2時～
場所　熊本の森（2間）
担当　五十嵐（当舎学芸員）

【次回の展示】
松平慶民と春嶽公記念文庫
2／28（火）～5／7（日）